

## 普段の生活に生きる国語科 ～将来の生き生きと自立した生活を目指して～

京都府  
京都市立竹の里小学校教諭  
国枝 勇希

### 一 はじめに

本校の学校教育目標は、「一人一人の人間性を高め 共に学び合い 希望を抱いて未来を拓く子ども」誇れる自分になるために「なりたいたい自分になるために」である。また、学校教育目標をもとにして、研究主題を「学びがよいある『私の問い』と言語活動を通して自ら学びをデザインする」ひたむきに学び、高め合う集団を目指して」としている。育成学級（特別支援学級）である。以下、「本学級」においても、一人一人の児童が自分の学びを自覚し、次のステップへとつなげられる力を獲得することは、将来、自分らしく、生き生きとした生活を送るために必要不可欠であると考える。

主体的・対話的で深い学びを実現する子どもたちの姿を目指すべく、研究主題に迫る取組を実態に応じて進めることの重要性を感じている。

本学級の令和六年度在籍児童は、閉・情緒障害二名、知的障害一〇名、病弱一名であり、四学級で取り組んでいる。子どもたち自らが『私の問い』を立て、その解決のための見通しをもって学習に向かうという全校で取り組んでいる学習スタイルを大切にしながら、「書く」「話す」「聞く」「読む」の取組を段階的に行い、令和三年度から研究を続けてきた。国語科を基盤としながらも、身につけた力を各教科、学校生活・家庭生活につなげ、子どもたち一人一人が「できる」と自信をつけられるような場の設定

### 二 令和三年度の取組

初年度は、「読むこと・書くことに苦手を意識している」指導者や友達の手意識をもっている」指導者や友達の手

表1 研究の全体計画

令和3年度	児童一人一人の「書く」「話す」「聞く」「読む」力のアセスメントをとる。
令和4年度	児童一人一人の実態に応じて「書く」「話す」「聞く」力の育成を目指す。
令和5年度	令和4年度の取組を継続しながら「読む」力の育成を目指す。（登場人物の思いや気持ち）
令和6年度	令和4年度からの取組を継続しながら「読む」力の育成を目指す。（感想文）

※本実践レポートにおいては、令和3年度～令和5年度の取組を記載する。  
※各年度、新入生・新入級生においては令和3年度の取組から行っていく。

話を最後まで聞くことに集中することが難しい。「相手に伝わるように話したり、テーマに沿った話をしたりすることに課題をもっている」といった本学級の実態をもとに、物語文の学習を通して「書く」「話す」「聞く」「読む」力がどこまで身につけているのかアセスメントをとりながら取組を進めた。

本学級の児童は、指導者が読む絵本を聞く時間を大変楽しみにしていたことから、国語科で扱う学習教材においても同様の形式で行うこととした。初めのうちは、高学年が中心となって『私の問い』を立て、低学年も含めた全員で問いの解決を行ってきた。『私の問い』の解決においては、気づいたことを発表しながらみんなで解決を行った。言語活動においては、『私の問い』の解決をまとめた「えにっき」アプリを見ながら、「好きな場面」を発表する場の設定を行った。さらに、主人公の人物像を捉える学習にも取り組み始めた。

### 三 令和四年度～令和五年度の取組

令和三年度の取組でとったアセスメントから「書く」「話す」「聞く」「読む」力のさらなる育成を目指した取組を進めた。以下に六年生（令和六年度）児童Aさんの取組の様子を中心にその足跡を記す。

表2 Aさんの年間学習計画

	令和4年度	令和5年度
「書く」	【1学期】 ・日記を書く（「えにっき」アプリの音声入力を使って書く）。 【2学期～3学期】 ・日記を書く（「えにっき」アプリの音声入力を使って書く）。	【1学期】 ・日記を書く（「日記の書き方テンプレート」に鉛筆で書く）。 【2学期～3学期】 ・日記を書く（ノートのマス目に鉛筆で書く）。 ・物語文の学習での『私の問い』を解決する文や登場人物の気持ちを表す文を書く（ワークシートに鉛筆で書く）。
「話す」「聞く」	【1学期】 ・朝のスピーチ（話したいことを指導者と話し合って発表する）。 【2学期～3学期】 ・朝のスピーチをする（タイマーを提示しながら時間を意識して発表する）。	【1学期】 ・朝のスピーチをする（話すテーマをホワイトボードに書いてから発表する）。 【2学期】 ・朝のスピーチをする（友達を発表を聞いて質問や感想を言う）。 【3学期】 ・朝のスピーチをペア（グループ）トーク形式で行う。
「読む」	【1学期～3学期】 ・指導者が読む物語文を聞いてみんなで『私の問い』を立て、集団授業の発表形式で解決する。	【1学期～2学期】 ・指導者が読む物語文を聞いて『私の問い』を自分で解決する。 【3学期】 ・指導者が読む物語文を聞いて『私の問い』をペア（グループ）トーク形式で解決する。

### コメント

特別支援学級の国語科の実践研究として、実践内容や子どもたちの反応が丁寧に記述された大変興味深いレポートです。三年間の校内研究の全体像が示され、学級の子どもたちに何をどのように学んでほしいのかという教師の意図がよく伝わります。日記や朝のスピーチ、ペアトーク・グループトーク等の取組は即現場の先生方の参考になるものと思われまます。特に『私の問い』を友達と解決する活動は、子どもたちの日々の生活や将来の生活にもつながる。まさに「普段の生活に生きる国語科」の取組です。